

へいせい ねん がつ にち
平成29年5月19日

へいせい ねんど だい かい た ぶん かきょうせい すいしん ひょうぎ かい しりょう
平成29年度 第1回多文化共生推進評議会 資料3

へいせい ねんど しせい も に た ー
平成28年度市政モニター
だい かい あ ん け ー と け っ か
第2回アンケート結果

て ー ま
テーマ3 「多文化共生に関する意識」について

し み ん か つ どう す い し ん ぶ た ぶん かきょうせい すいしん か
市民活動推進部 多文化共生推進課



は ち お う じ し
八王子市

目

次

しせい も に た ー ぞくせい	《市政モニターの属性》	1
て ま	テーマ3「多文化共生に関する意識」について	2
とい	問1 「多文化共生」の周知度	2
とい	問2 八王子市は外国人が安心して暮らせるまちだと思えるか	3
とい	問3 あなた自身の国際感覚の豊かさの変化	3
とい	問4 八王子国際協会が実施する外国人支援事業等の周知度	4
とい	問5 外国人市民が増えていくことについて考えること	4
とい	問6 外国人に関連して困った経験の有無	5
とい	問6-1 困ったことの内容	5
とい	問7 外国人市民と協力しあえるようになるためにできること	6
とい	問8 「多文化共生のまちづくり」の推進のため、市が力を入れるべきこと	7
とい	問9 ドイツ・ヴリーツェン市の周知度	7
とい	問10 海外友好交流都市と交流したい内容	8
とい	問11 多文化共生についてのご意見（自由記述）	10

《市政モニターの属性》

(太枠内は今回の回収数)

ぜん たい 全 体		ゆうそう 郵送		めーる Eメール		ごうけい 合計	
		67	61	32	30	99	91
せい 性 べつ 別	男性(だんせい)	28	27	18	17	46	44
	女性(じょせい)	39	34	14	13	53	47
ねん 年 だい 代	18歳(さい)～29歳(さい)	14	12	7	5	21	17
	30歳代(さいだい)	10	9	9	9	19	18
	40歳代(さいだい)	9	8	4	4	13	12
	50歳代(さいだい)	7	7	5	5	12	12
	60歳(さい)～64歳(さい)	4	4	0	0	4	4
	65歳以上(さいいじょう)	23	21	7	7	30	28
ち 地 く 区	ちゅう おう ほんちよう ち く 中 央 (本 庁 地区)	21	20	8	8	29	28
	せいなんぶ あさかわ よこやま たて ち く 西 南 部 (浅 川・横 山・館 地区)	8	7	2	2	10	9
	とう ぶ ゆ ぎ ゆ ぎ ひ が し み な み お お さ わ ち く 東 部 (由 木・由 木 東・南 大 沢 地区)	11	10	9	8	20	18
	せい ぶ も と は ち お う じ お ん が た か わ ぐ ち ち く 西 部 (元 八 王 子・恩 方・川 口 地区)	16	14	6	6	22	20
	とうなんぶ ゆ い き た の ち く 東 南 部 (由 井・北 野 地区)	7	7	4	3	11	10
	ほく ぶ か す み い し か わ ち く 北 部 (加 住・石 川 地区)	4	3	3	3	7	6

(^{じたいしや} 辞 退 者 が 1 名 ^{めいしやう} 生 じ た た め、^{ていいん} 定 員 は 99 名。)

- ※ アンケート実施期間：平成28年12月7日から12月21日まで
- ※ 回収率： 91.9% (小 数 点 第 2 位 を 四 捨 五 入)
- ※ 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表示した。(百分率は、小 数 点 以 下 第 2 位 を 四 捨 五 入 し て 算 出 し て あ る た め、合 計 が 100% に な ら な い 場 合 が あ る。ま た、複 数 回 答 の 場 合 は、回 答 比 率 の 合 計 が 100% を 超 え る 場 合 が あ る。)
- ※ 割合の表 現 については、以下の表記を基本とする。

＜例＞

ひようき 表 記	4 割	やく わり 約 4 割	わりきやう 4 割 強	わりだいなか 4 割 台 半 ば	わりちか 5 割 近 く	わりじゃく 5 割 弱
わりあい 割 合	40.0%	40.1～40.9%	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9%

また、質問における選択肢を統合し、『 』を用いて記述している場合がある。

＜例＞「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を統合して『そう思う』。

- ※ 自由記述の番号は、通し番号でありモニター番号ではない。
- ※ 自由記述の表 現 は でき る 限 り 原 文 の ま ま 記 載 し て い る が、アンケート全体で統一するため、一部表 現 を 修 正 し て い る。ま た、特 定 の 個 人、団 体 へ の 誹 謗 中 傷 に つ な が る 内 容 や 企 業 の 営 業 活 動 に 影 響 す る も の、根 拠 が 明 確 で な い も の な ど は、一 部 削 除 ・ 修 正 し た。

テーマ3 「多文化共生に関する意識」について

市民活動推進部 多文化共生推進課

市は平成25年3月に「八王子市多文化共生推進プラン」を策定し、八王子国際協会など市民ボランティアの方々と協働して、外国人市民にとっても、日本人市民にとっても暮らしやすいまちづくりを推進しています。

市では外国人市民の方々が持つ多様性をまちづくりに生かしていけるよう、多文化共生（※）施策をより一層推進していく必要があると考えています。

プラン策定からすでに4年近くが経過し、本市の外国人市民は平成28年10月末に1万1千人を突破し、全人口に占める割合は約1.98%で、プラン策定時と比べ約2割増と、今後も増加していくことが見込まれています。

こうした外国人市民を取り巻く環境の変化に応じ、日本人市民、外国人市民それぞれの意識を改めて調査して、プランの見直しに反映したいと考えてしました。

そこで、市政モニターの皆さんに外国人市民を受け入れる日本人としての意識調査という視点で、多文化共生施策に関するアンケートにご協力をお願いします。

※多文化共生とは

国籍、民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことをいいます。

問1 あなたは「多文化共生」という言葉を知っていましたか。 (〇は1つだけ) (n=91)

	構成比(%)
よく知っている	11.0
だいたい知っている	19.8
聞いたことはある	41.8
知らない	27.5

「多文化共生」という言葉を知っているか聞いたところ、「聞いたことはある」が4割強(41.8%)と最も多く、次いで「知らない」が3割近く(27.5%)であった。

問2 市では「外国人市民も安心して暮らせるまちの実現」を基本目標の一つとして掲げ、外国人に対するコミュニケーション支援や生活支援の充実を推進しています。あなたは、八王子市が外国人も安心して暮らせるまちだと思いますか。（○は1つだけ）

(n=91)

	構成比 (%)
そう思う	13.2
どちらかといえばそう思う	44.0
どちらかといえばそうは思わない	14.3
そうは思わない	6.6
わからない	22.0

八王子市は外国人が安心して暮らせるまちだと思うか聞いたところ、「そう思う」(13.2%)と「どちらかといえばそう思う」(44.0%)を合わせた『そう思う』は6割近く(57.2%)となっている。

問3 市では、「国際感覚豊かな市民を育むまちの実現」を基本目標の一つに掲げ、多文化共生意識の啓発や国際理解・国際交流を推進していますが、あなたは以前に比べて国際感覚が豊かになったと感じますか。（○は1つだけ）

(n=91)

	構成比 (%)
以前から豊かである	5.5
豊かになった	9.9
どちらかといえば豊かになった	16.5
ほとんど変わらない	36.3
まったく変わらない	14.3
以前の方が豊かだった	1.1
わからない	16.5

市が推進している多文化共生意識の啓発等により、あなたの国際感覚は以前と比べて豊かになったと感じるか聞いたところ、「ほとんど変わらない」が4割近く(36.3%)と最も多く、次いで「どちらかといえば豊かになった」、「わからない」が2割近く(16.5%)であった。

問4 市民団体「八王子国際協会」は、多文化共生社会の実現に向け、市と協働してさまざまな外国人支援事業や交流イベントを実施していますが、あなたはそれを知っていましたか。
(〇は1つだけ)
(n=91)

	構成比 (%)
会員やボランティアとして参加したことがある	0.0
イベントや講座に行ったことがある	1.1
活動内容について知っている	2.2
名前を聞いたことがある	25.3
知らない	71.4

市と市民団体「八王子国際協会」が協働して外国人支援事業等を行っていることを知っているか聞いたところ、「知らない」が7割強（71.4%）と最も多く、次いで「名前を聞いたことがある」が2割台半ば（25.3%）であった。

問5 外国人市民は今後さらに増えていくことが見込まれますが、市内に外国人が増えていくことについて、あなたはどのように考えますか。
(〇はいくつでも)
(n=91)

	構成比 (%)
生活習慣（ごみの出し方やマナーなど）の違いにより、生活環境が悪くならないか心配	59.3
外国の文化にふれる機会が増える	38.5
外国人の知人・友人ができる	34.1
まちが賑やかになるなど活気がでる	31.9
外国人が増えること自体、なんとなく不安に思う	30.8
外国語を学べる機会が増える	19.8
日本語が通じない人が増えることで、不便、不安に思う	14.3
日本の習慣や街並みなどの景観から日本らしさが失われる	7.7
その他	5.5
特にない	1.1

市内に外国人市民が増えていくことについてどのように考えるか聞いたところ、「生活習慣（ごみの出し方やマナーなど）の違いにより、生活環境が悪くならないか心配」が6割弱（59.3%）と最も多く、次いで「外国の文化にふれる機会が増える」が4割近く（38.5%）であった。

【その他】

- ・ 考え方が違い、驚くことがある。
- ・ 郷に入っては郷に従えという言葉が外国人には通用しないので、勝手気ままにふるまう外国人もいるので困る。
- ・ 良い面もあるだろうが悪い面の方が大きいと感じる。
- ・ その外国人が偏った考えを持っていないか、境遇に対する恨みなどないか、一人ひとりをしっかり見てほしい。外国人が危ないとは思ってはいないので、増えることには何も思わないが、リスクを減らしてほしい。

問6 あなたは今までに、外国人に関連して困った経験がありますか。 (〇は1つだけ)
(n=91)

	構成比 (%)
ある (→問6-1へ)	29.7
ない (→問7へ)	70.3

外国人に関連して困った経験があるか聞いたところ、「ある」が3割弱（29.7%）、「ない」が約7割（70.3%）であった。

【問6で「ある」とお答えの方に】

問6-1 困ったことはどのようなことですか。 (〇はいくつでも)
(n=27)

	構成比 (%)
日本語が通じない	59.3
ごみの出し方など基本ルールを理解していない	29.6
日本の習慣を理解してもらえない	22.2
外国人の考え方が理解できない	22.2
部屋からの声や物音、臭いなど	22.2
どのように接したらいいのかわからない	11.1
町会・自治会活動などに参加してくれない	3.7
その他	14.8
無回答	3.7

問8 「多文化共生のまちづくり」を進めるためには、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)
(n=91)

	構成比 (%)
日本の文化や生活情報を外国語で知らせる	52.7
日本人と外国人の交流イベントを開催する	42.9
外国人の子どもや留学生への支援	39.6
外国人への偏見・差別をなくすための努力	38.5
日本人と外国人が意見を交換できる機会をもうける	34.1
日本人と一緒に地域活動に参加する外国人の育成	28.6
外国人が意見や提案をしやすくする	24.2
外国の文化や生活情報を紹介する	22.0
NPOやボランティアの育成と支援	22.0
その他	5.5
特になし	4.4

「多文化共生のまちづくり」を進めるために、市はどのようなことに力を入れるべきか聞いたところ、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が5割強(52.7%)と最も多く、次いで「日本人と外国人の交流イベントを開催する」が4割強(42.9%)であった。

【その他】

- 日本語教育や日本の習慣を教える。
- 手軽に通訳を頼める環境。
- 本質的に外国人は好きではない。
- 我々も海外で経験したように、外国人の方にも、郷に入っては郷に従え精神が必要。基本的にそれしかない。
- そもそも「多文化共生のまちづくり」進める必要がない。

問9 本市は、平成18年に中国・泰安市、台湾・高雄市、韓国・始興市との間で海外友好交流都市協定を締結して、スポーツや文化交流などさまざまな交流事業を実施しています。平成29年には市制100周年を迎えるにあたり、新たに本市中町出身の医師・肥沼信次博士(※)ゆかりのドイツ・ヴリーツェン市との間に、海外友好交流都市として協定締結を目指しています。

あなたはドイツ・ヴリーツェン市を知っていましたか。(〇は1つだけ)
(n=91)

	構成比 (%)
以前から知っている	1.1
最近知った	11.0
名前は聞いたことがある	11.0
知らない	76.9

※肥沼信次博士とは

第二次大戦終戦直後のヴリーツェン市で、昼夜を分かたず伝染病治療にあたり、多くのドイツ人の命を救った八王子市の誇れる偉人です。伝染病により37歳の若さで亡くなりましたが、現地では名誉市民として今でも広く尊敬されています。

ドイツ・ヴリーツェン市を知っていたか聞いたところ、「知らない」が8割近く（76.9%）と最も多く、次いで「最近知った」、「名前が聞いたことがある」が1割強（11.0%）であった。

問10 あなたは、海外友好交流都市（候補都市であるヴリーツェン市を含む）と、どのような交流をしていきたいと思いますか。該当する項目を選んで、交流内容を具体的に記入してください。（〇はいくつでも）

(n=91)

	構成比 (%)
観光、市民交流	34.1
青少年交流	26.4
文化交流	23.1
スポーツ交流	13.2
産業、経済交流	13.2
その他	3.3
特に思わない	30.8

海外友好交流都市とどのような交流をしていきたいか聞いたところ、「観光、市民交流」が3割台半ば（34.1%）と最も多く、次いで「特に思わない」が約3割（30.8%）であった。

＜交流内容＞

【観光、市民交流】

- ・ 特産品の物産展などがあると交流しやすいと思う。
- ・ 閉鎖的でない視野の拡大。
- ・ ヴリーツェン市の観光紹介をする。
- ・ 小さな親切を心がけたい。
- ・ いけ花や茶道、着つけ。（着物文化）
- ・ ヴリーツェン市の人たちが八王子に来たり、八王子からも行けたら良いと思う。
- ・ 協定を結んでいる国には、安く行けるようにして、観光を促す。
- ・ 両都市の様子を広く伝えることで訪れるきっかけとなるような施策を図る。
- ・ 料理教室（お互いの国の料理を教え合う。）

- ・ 観光パンフレット配付。
- ・ オクトーバーフェストのようなドイツの物が食べられるような催しは盛り上がると思う。
- ・ 乾物や缶詰、瓶詰など購入したいと思う。
- ・ その国との市民交流で、お互いの風習、文化を理解して、郷土料理で深まると良いと思う。
- ・ 日本の観光のPRはすごいが、海外ではどのようになっているのか聞いてみたい。
- ・ 八王子まつりに海外の青少年及びその都市の祭主宰者及び何かの名工等を招待し、まつりに参加してもらい交流を深める。
- ・ 観光で良いところを教え合う。
- ・ 民家を宿泊施設として提供する。
- ・ 現地への観光ツアー。
- ・ お互い市民を誘致し合い、文化を相互で学ぶ。
- ・ 名産品の紹介や交流国間は特別プラン価格によるツアーの開催等。
- ・ 八王子まつりに来てもらったり、あちらのクリスマスマーケットに行ってみたり、お互いの伝統的なイベントをシェアする。

【青少年交流】

- ・ 交換留学（4件）
- ・ ホームステイ（3件）
- ・ 将来に向けた必然性としての交流。
- ・ 招待して教え、教わる。
- ・ 青少年親善大使を作る。
- ・ インターネット、TV電話などで学校間の交流イベント。
- ・ 外国語を知るには、色々な外国の人たちと触れ合うことが一番だと思う。
- ・ 夏休み等の訪問。
- ・ 現地の学校と姉妹校となり、交流を深める。
- ・ 留学、数日の研修などがあれば是非参加したい。
- ・ 中高大学生らによる相互交流。（自身の体験による八王子のPR。）
- ・ 若い人の心の持ち方。
- ・ 学校等に外国の方を招き、交流する。
- ・ 毎年小学生何人かとの交換留学をする。（短期でも。）
- ・ 文化やスポーツを通じての交流。

【文化交流】

- ・ お互いの伝統文化を紹介し、発展させる。（2件）
- ・ 高校生、大学生を派遣して文化交流をする。
- ・ 過去にとらわれると難しいことはあると思うので、今現在の文化を双方が発信することで、市民に広く伝える。
- ・ お互いの文化を少しでも理解できるようにする。
- ・ 八王子まつりでの民族衣装やその都市の代表料理の出店。
- ・ 芸術の誘致。
- ・ それぞれの市の文化の共有や交流。

- ・ 小中高生の作品の展覧会。
- ・ ドイツ料理と日本料理教室や、ビール飲み比べなど。
- ・ 八王子まつりなど伝統文化の紹介と交流。(ヴリーツェン市でイベント開催など。)ヴリーツェン市にも同様の伝統文化があると思うので、市内のイベントへ招待する。武道等日本らしさの文化の紹介と交流。
- ・ お互いの都市への訪問。

【スポーツ交流】

- ・ 招待して、お互いに教え、教わる。
- ・ 互いのスポーツを共有する。
- ・ 野球、サッカーなどを一緒に行う。
- ・ 何のスポーツが盛んか聞いてみる。
- ・ スポーツ留学
- ・ サッカー交流
- ・ サッカーが強いので小学生の親善試合などができたら面白そう。

【産業、経済交流】

- ・ 日本人技士、職人による技術力の提供。
- ・ ドイツの就労に関して。
- ・ 輸出入で経済を活性化する。
- ・ 物産展の実施。
- ・ アンテナショップなどを作ってほしい。
- ・ 国民の生活がどのようにして成り立っているのか。
- ・ 八王子市にある会社の製品などを現地へ紹介する。
- ・ 地元企業の現地支社、支店の設立などによる産業的な交流。

【その他】

- ・ どんな物をどのように調理して食べているのか、ふだんの生活そのものを知りたい。
- ・ 保健、医療分野の交流。
- ・ ヴリーツェン市がわからないので、どうすればよいかわからない。

問11 その他、多文化共生に関するご意見がありましたら、ご記入ください。(自由記述)

外国人が住みやすい環境づくり

- 公共の建物で外国語表記(英語、中国語、韓国語など)を積極的に行っていくと良いと思う。
(10代 女性 西部)
- 私の居住する近くにも海外の方が増えた。イスラム教の“ハラール”(広聴課注:イスラム法で許された項目をいう。端的にはイスラム法上で食べることが許されている食材や料理を指す。)の表示がないことに困っている方をスーパーで見かけたことがあり、かたことの英語で説明したことがある。“豚肉とお酒”がだめと言っていた。
(20代 女性 東南部)

- 3 外国人の方々から見て外国語表記の少なさや外国物産を販売する場所などの少なさなどから、暮らしにくいのではないかと。またそういったことが、我々日本人が外国に接する機会の減少につながってしまうのではないかと。(20代 男性 北部)
- 4 八王子市に無料のWi-Fi(広聴課注:パソコン等の機器を、無線(ワイヤレス)でネットワークに接続する技術。)を設置して、外国の方が居やすいようにする。(20代 男性 東部)
- 5 日本で生活する外国人の多くは、お子様の教育について悩んでいると思う。(インターナショナルスクールに入らない限り日本語で授業を受けることになるが、日本語を話せないご両親の場合、お子様は授業についていけず、周りの友達とも交流できずに辛い思いをする。)そういったところを迅速に市としても学校としてもサポートしてあげてほしい。(20代 女性 中央)
- 6 病院に勤めている。言葉が通じないと困ることがある。外国の方は何を言っても「はい、はい」と答えるが、理解していないことも度々。通訳を頼みやすい環境が必要だと思う。(40代 女性 西南部)
- 7 外国から来たお子さんのいる方が、幼稚園、小学校、中学校などで孤立しないように、行政やまわりの方たちからの温かい支援が必要だと思う。(40代 女性 東部)
- 8 外国語のあいさつ等のパンフレットを配布し、市民が気おくれせず外国人と接することができるようになると良いと思う。(60代 女性 西南部)

お互いを理解し合う

- 9 それぞれの強みを活かし、文化をとりいれる。(30代 女性 西南部)
- 10 外国人も、日本の文化を学びたいと思って来日していると思うので、歴史的なスポット(復元建築物とか)が市内に増えると良いと思う。(30代 男性 北部)
- 11 言葉の壁はあると思うので、どれだけ相手を理解し、わかりあえるかが重要だと思う。(40代 男性 中央)
- 12 外国の方を思いやる心が大切だと思う。相手の方を大切に思いながら、多文化共生をしていくことが大事だと思う。(50代 女性 北部)
- 13 風習、文化はその国など地方によってもぜんぜん違うと思う。一番通じあえるのは郷土料理で、地方(国)のことが一番理解できると思う。(50代 女性 西部)
- 14 今後は、よりグローバルに世界と向き合う必要があり、民族を超え、お互いを尊重し、他の国々の文化を受け入れ、自国の誇りを発信していく必要があると思う。(60代 男性 西部)
- 15 文化は各国いろいろあると思う。そこで、あまり干渉しないで良いのではないかと。(70代 男性 中央)

交流をもつ

- 16 人々との話し合いを通して、関わりや交流をしていくことが大切だと思う。(20代 女性 東南部)
- 17 歴史的にも、地理的状況(日本は他の国と接していない)から考えても、日本人は外国人との接し方が下手だし、受け入れたくないという人が多いと思う。私の時代と違って、今の若い人々は外国人との交流が多くなってきており、これから少しずつではあるが、外国人に対する偏見が少なくなり、いろんな国の人々と共生していけるのではないかと。(50代 男性 中央)
- 18 八王子は大学が多くある。若い方たちの協力を得て、もっと交流ができると良いと思う。やはり言葉がしゃべれなくては意志もなかなか伝わりにくいので、言葉(外国語)の話せる

- ボランティアの方々を多くした方が良くと思う。(60代 女性 東部)
- 19 日常の中で、同じ人間としてどんな相手にも敬意を持って接すること。それは個人の努力だけでなく、小さな頃から教育などを通じて、多文化交流をしていくことが大事だと思う。(60代 女性 東南部)
- 20 外国人だからといってあまり意識せず、なるべく普通に付き合い、共存するのが良い。日本人は外国人を意識しすぎていると思う。(60代 男性 西南部)
- 21 八王子市役所横河川敷にアメリカ・日本・ドイツ(ヴリーツェン市)・ロシア等、各国の人が店(屋台)を出し、積極的に話し掛けてもらい、食事、ゲーム等をしながら市民交流をする。(桜の季節、夏の季節)(70代 男性 西部)

多文化共生について学ぶ

- 22 私自身、なんとなく外国の方に偏見を持ってしまうので、学校でそれをなくす取り組みがあれば良かったのと思う。(20代 男性 西南部)
- 23 外国の文化や偏見をなくすための情報を共有し、受け入れやすくすることが重要と思う。「とりあえずやってみる」ではなく正しい情報の上で進めたほうが良いと思う。(30代 男性 東南部)
- 24 外国人に対して、拒否感や嫌悪感を持たないように、幼いころからの教育も大事だと考える。子どもは遊びを通して仲良くなるので、外国人ママと日本人ママが子どもとともに遊べる場所も増えると良い。(40代 女性 中央)
- 25 ダイバーシティをいろんな教育現場で教えてほしい。(子どもの頃から教育)(60代 男性 中央)

共生の難しさ、時間が必要

- 26 多文化共生を進める必要はない。文化交流は良いことだと思うが、共生はしなくて良い。外国人が日本で生活するために必要なことは、日本社会が外国人に合わせるのではなく、外国人が日本社会に合わせることだ。(20代 男性 東部)
- 27 多文化共生は良いことだと思う。ただ、市民すべてが諸手を挙げて賛成しているとも思えない。こういうことに適応性の高い人・そうでない人様々だと思うので、性急に進めるのは避けてほしい。特に、市内に〇〇〇タウンとかリトル△△△のようなものができてしまい、市民と交流しない異国が出現しては意味がない。ヨーロッパを見ていると、そういう所がテロリストの隠れ家になっているように思える。(60代 男性 東部)
- 28 多文化共生の言葉のひびきは良いが、現実の社会は厳しい。たとえば宗教に対する意識や考え方。(70代 女性 西部)
- 29 短期的に共生はできても、持続可能な関係にまで融合するには世代交代など、長い時間が必要だと感じた。(70代 男性 北部)

相談窓口やルール周知などの環境づくり

- 30 日本人が外国に行ったら、外国のルールに従う。外国の方も日本に来たら日本のルールに従っても構わないと困る。でもルールを知らなければ従うことができないので、“日本では、こうですよ”と教えたり、相談できたりする気軽な窓口があればと思う。(40代 女性 中央)
- 31 外国人が困った時に相談できる場所を周知する。(60代 女性 中央)
- 32 ごみ減量に向け分別をしているが、外国人には理解が難しいと思う。不動産業者も、入居時に説明しているか疑問。日本語学校で、喫煙のルールをコンビニの前で説明しているのを見かけたが、

日常生活のルールも教えてほしい。日本語学校の学生以外でも、何らかの形で周知する必要がある。
(70代 女性 中央)

その他

- 33 そもそも多文化共生がなぜ、外国にすることだけなのか。国内での異文化ですらすぐに排除するような国に、外国の異文化を受け入れ、共生することができるようになるとは到底思えない。まずは国内での様々な意見に耳を傾けるような体制を整えることをしなければ、何も変わらないと自覚すべき。
(20代 男性 東南部)
- 34 自治会、子ども会、シニアクラブなど日本人であっても組織率が低下している。多文化共生は無論であるが、地域の再構築、異世代交流の面から取り組みが急がれると考える。
(60代 女性 東南部)
- 35 相手がわからず、都市もわからず、それでは何もわからない。年をとるとわからないことばかり。今更ダメ。
(60代 女性 東部)
- 36 多文化共生を良いと思う人もいるが、私のようにあまり気の進まない人も多いと思う。
(70代 女性 西部)
- 37 息子が海外（ハノイ・バンコク）で生活させてもらっている（15年ほどになります）ので、困っていればお手伝いしたいと思うが、なかなか機会がない。外国の人を見れば、息子もこんな生活をしているのかと思う。外国の人を見かけると、幸福に生活してほしいと祈っている。
(70代 女性 中央)
- 38 会社員の時代には仕事上、外国人と関係することが多少はあったが、退職後は全くない。自分のまちには外国人はいない。
(80代 男性 中央)